

部門別感染対策

I. 部門

1. 高度救命救急センター
2. 集中治療部
3. NICU
4. 外来
5. 血液浄化部

II. 各部門の特徴

1. 高度救命救急センター

- 1) 感染性疾患の有無が不明確である
- 2) 侵襲処置を要する重症患者が入室するという特性を持つ
 - ・ 生体防御機能の破綻（高齢、栄養状態の不良、広域抗菌薬の投与など）
 - ・ 重篤な基礎疾患（糖尿病、悪性腫瘍、意識レベルの低下など）
 - ・ 侵襲処置や治療にて皮膚バリア機能を破綻させる医療器具の使用
血管内留置カテーテル
尿道留置カテーテル
人工呼吸器
外科手術など
- 3) 特に、初療処置では血液・体液の飛散が多く曝露リスクが高い
- 4) Intensive care のため医療スタッフ数が多い

2. 集中治療部

- 1) 侵襲処置を要する重症患者が入室するという特性を持つ
 - ・ 生体防御機能の破綻（高齢、栄養状態の不良、広域抗菌薬の投与など）
 - ・ 重篤な基礎疾患（糖尿病、悪性腫瘍、意識レベルの低下など）
 - ・ 侵襲処置や治療にて皮膚バリア機能を破綻させる医療器具の使用
血管内留置カテーテル
尿道留置カテーテル
人工呼吸器
外科手術など
- 2) 医療関連感染（Healthcare Associated Infections : HAI）の発生頻度が高い
- 3) Intensive care のため医療スタッフ数が多い

3. NICU

- 1) 当院 NICU に入室する児の多くは、出生後まもなく皮膚バリアが脆弱な状態で侵襲処置を受けることが多い
- 2) 侵襲処置を要する重症患者が入室するという特性を持つ
 - ・ 生体防御機能の破綻（高齢、栄養状態の不良、広域抗菌薬の投与など）
 - ・ 重篤な基礎疾患（糖尿病、悪性腫瘍、意識レベルの低下など）
 - ・ 侵襲処置や治療にて皮膚バリア機能を破綻させる医療器具の使用
血管内留置カテーテル
尿道留置カテーテル
人工呼吸器
外科手術など
- 3) 医療関連感染（Healthcare Associated Infections：HAI）の発生頻度が高い
- 4) Intensive care のため医療スタッフ数が多い

4. 外来

- 1) 未診断の潜在的感染症患者と易感染性患者が混在する環境
- 2) 滞在時間は短いが患者・家族、業者、医療者、外部委託業者、学生など、所属が多岐に渡り、感染症の持ち込みリスクが高い環境

5. 血液浄化部

- 1) 慢性透析患者は易感染性であり、血液を体外に導いて治療するという治療法の特性上、処置を介した感染のリスクが高い
- 2) 大きな部屋での集団治療を行うという治療環境

III. 感染対策について

各部門の特徴に応じた、感染対策を実施するにあたり、基本的には標準予防策を日頃から確実に実践し、必要に応じて経路別感染対策の追加を行う。